

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	173200510		
法人名	医療法人社団 三愛会		
事業所名	グループホーム「里の家」2階ユニット		
所在地	名寄市西1条南4丁目17番地		
自己評価作成日	平成29年7月25日	評価結果市町村受理日	平成29年 10 月 13 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173200510-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173200510-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成29年9月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時に玄関にある理念を黙読している。また、カンファレンスや勉強会の場において、理念の大切さを学び、意識しながら実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や避難訓練への参加依頼、事業所から町内会行事に参加をする事で一方通行にならない関係作りが出来てきている。また、近隣の方にはしっかりと挨拶が行えるよう、意識している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関して運営推進会議等で話題に挙がった際には理解して頂ける様実際に行っている。支援の内容も含めながら分かり易い説明を意識しているが改めて理解や支援に関して発信の場面を設けてはいない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活発な意見交換がし易い雰囲気作りを気付けており、和やかな雰囲気となっている。その席上での発言について、サービス向上に繋げられる様、臨機応変に対応している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から地域包括支援センターや高齢福祉係介護保険係等との情報交換が行われており良好な関係を築く事ができている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の生活を支援していくの中で、転倒による事故を意識するあまりに制止を促しがちである。不適切ケアを含める身体拘束廃止について勉強会で取り上げる事で定期的に自分達のケアについて振り返る機会を設けている。施錠は基本的に夜間の防犯目的で行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自分達が意識しない場面で不適切なケアや虐待に当たる様なケアがないか、勉強会を通じて学ぶ機会を持ち言葉の使い方で全く違った印象を与える場合もある等気付きの場となっている。又近隣で開催される研修会への参加もできている。		

グループホーム「里の家」2階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修会に参加し学ぶ機会を持つ事ができたが、理解されるまでには至っておらず今後も事業所全体で学習の機会を持っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退居時、制度の改定時に於いて、文書と口頭にてゆっくりと時間をかけながら説明を行い同意を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を表出できる機会として運営推進会議が挙げられるが、ケアプランの説明の機会には特にご家族の気持ちを汲み意向を伺える様に務めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議からの意見や意向を集約し職員の意見を聞いてもらう事ができる環境がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得によるキャリアアップ制度や実績を考慮した昇給もあり、個人の頑張りが認められる職場環境となっている。また労働環境についても時間外手当や有給休暇の消化等職員が無理なく勤務にあたる様に整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行われる事業所独自の定期的な勉強会や近隣で開催される研修会への参加、職員の力量に合わせた研修会への参加も随時行っている。最近の勉強会については職員が聴くだけの形式でなく全員参加型を目指し取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との情報交換が少しずつ行える様になっており、交流も行えつつあるが勉強会までは至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込み時の情報やその後の経過をご家族や関係機関から伺い、更にご本人の言葉や様子から必要な支援を見極めつつ、不安なく生活できるよう、本人に寄り添う事に意識した係わりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対してのご家族の思いや不安を共に共有し事業所に求めたい意向を伺いながら、ご本人と一緒に支えられる様良好な関係づくりに努めている。また、大きな出来事以外でもこまめに報告を行う事で安心感が得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込み時や待機中の状況確認の際にはご本人やご家族が困っている事柄を把握し、その事柄が少しでも緩和できるよう、受診を勧めたり他の施設の待機状況を収集しアドバイスをを行った事もあった。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が望む活動を把握してできるだけ希望に添う事ができる様随時話し合いを行っている。また、ご本人の力が少しでも長く維持できるような活動をご本人やご家族に提案しながらプランを提供している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、外泊は基本的に自由となっている。また、電話に関しても機会は少ないがご家族の事情も考慮しながら行っている。面会時には最近の様子を伝える事でご家族と情報を共有できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの制限がない限りかつての知人や友人の面会も自由とし、突然関係が断ち切れてしまう事がないよう努めている。また、面会に来易い雰囲気作りと、ゆっくり談笑できる環境づくりに努めている。馴染みの美容院等への支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状によって孤立を生みやすい環境となりがちな為、特に入居者同士の関係性の把握について強く意識をしている。スタッフが間を取り持ち係わりの時間を意識する事で関係性の維持に努めていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	かつて退居後にもご家族から相談を受けたケースもあったが時間の経過と共に自然と関係性も薄れ挨拶を交わす程度となっていく傾向にある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し送りや会議の場、カンファレンスを利用しご本人の言動から希望や意向の把握に努めている。特に発語の少ない入居者の気になる発現に関しては特に意識しご本人の気持ちを汲み取れるよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者ご本人やご家族から得た情報と他事業所からの情報、入居後の生活を合わせ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を把握し情報の共有をしながらアセスメントを行う事でより良い暮らしに繋がれる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にかンファレンスを行う中で今後ご本人の能力が活かせる場面や課題、ケアのあり方について話し合われている。また事前に医師や看護師、リハビリスタッフから助言を得る事でより現状に即した介護計画となる様に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関して定期的な勉強会が行われているが依然として記録内容に差が見られ、気づきや工夫アセスメントに繋がる記録には至っておらず、皆が力を付けられる機会を今後も持つていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や入・退院時の送迎等、日中・夜間に関わらずその時々状況に合わせた柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開設後14年が経過し年々町内会との関わりが深くなりつつある。季節に合わせて散歩や外気浴を行う中で近隣住民と気軽に挨拶が行なえる等馴染みの関係となっている。名寄市や他の事業所とのつながりもより深まっている状況。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を伺いながら基本的にかかりつけ医の受診が継続される様支援している。看護師や主治医の指示や意見により専門医への受診が必要になる場合もあるが、その際はご家族の理解を求める事で必要な医療に繋げている。		



グループホーム「里の家」2階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院と医療連携を取っていて、週1回看護師の訪問がある。訪問までの様子を報告し、状況によっては専門医に掛かる事を勧められたり、相談に乗ってもらう等の連携が図られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院時には情報提供書や口頭にて気になるご本人の状況について情報交換を行っている。面会の際にも看護師からご本人の情報を得る事でできるだけ早く元の生活に戻る事ができる様に情報の共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として“できる事”“できない事”については重要事項説明書以外でもご家族には口頭での説明も行っている。また介護度に変更があった場合特養等への申込を勧めている。重度化・急変時は専門医への受診をご家族同席を求め医師の話を一緒に聞いてもらう場を設けそこで判断している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応に不安がある為勤務調整を行いながら継続して救命講習を今後も受講していく予定だが、講習といった形だけではなく事業所内でも基本的な初期対応について復習ができる機会を持つ事で実践できる力を身に付けていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春と秋の年2回の呼集訓練と消防訓練を行なっている。消防訓練に関しては、関係各所の理解と協力を得られており、その日の午後には運営推進会議を開催し、地域との協力体制を確認している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴等できるだけ他の入居者からの視線が集まらない様な工夫と声掛けを意識する事で人格や誇りプライバシーの保護に対して努力しているが現状としては、声掛けの仕方にはまだまだ改善の余地が見られる状況。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	排泄や入浴、休息、活動への参加に関しては最大限ご本人の意思を尊重する様に努めているが水分や間食等小さな事でもご本人による自己決定の機会を持つ事がなかなかできていない状況。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事、休息の時間等できるだけ入居者一人ひとりのペースに合わせた支援ができるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に以前から通い慣れた理・美容室に出掛ける等しながら身だしなみに対して意識してきたが、スタッフ同士で気付けない場合も度々あった為、今後も意識をする必要がある。		

グループホーム「里の家」2階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する事としては、片付けを中心としながら行う事ができたが、今後は準備についても徐々に行ってもらう予定。また入居者と係わる中で嗜好についての聞き取りをしながらメニューにも活かしていきたい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分量に関してはある程度確保されている。食事が少ない入居者はご本人が好む物や補食の準備・提供をしている。他にも機能性栄養補助食品等の処方を依頼し栄養状態の維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄や歯磨きについては、夕食後しか行っていない状況の為事業所として改善していきたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットやリハビリパンツ等は、日中・夜間の状況に合わせた物を使用している。基本的にご本人の尿意に任せているが排尿の間隔が長い時には随時声掛けを行っている状況。現状として、排泄の自立といった支援には至っていない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の大半が、常時下剤を内服している状況。現在は水分摂取を多めに促し腹部マッサージや乳製品を摂取する事で便秘の予防に努めている。今後はご本人に合わせた運動も取り入れる事でスムーズな排便コントロールにつなげていきたい。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けをした上で、ご本人の返答・意思に沿った入浴をしている。コンスタントに入浴ができないケースもあり職員の都合も含め声の掛け方の工夫もしていきたい。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的にご本人が眠気を感じたタイミングを見極め声掛けをしている。また日中傾眠がちに過ごす入居者に対し居室で休息できるような声掛けも行っている。換気温度調節にも配慮しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化の確認や薬剤の目的や副作用等について調べる事が徐々にできつつある。また、症状に合わせた受診についても柔軟に行う事ができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者によって活動量や役割について一人ひとりばらつきが見られている。活動量が少ない入居者には気分転換を含め、ご本人の力がいかに維持できるかについて意識をしながら対応していきたい。		

グループホーム「里の家」2階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	催し物、散歩や外気浴、ドライブ等については希望時又はスタッフからの働き掛けで行われた。入居者の買い物の機会をはじめそれ以外での外出の機会はなかなか持つ事ができず日常的な外出支援に繋がられていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際には基本的に、金銭の持ち込みを遠慮して頂く様話をしているが、家族了解の下、数名の入居者は手元に金銭を持ち生活を送っている。現状では実際に自ら支払いを行なう機会の支援までは至っていない状況。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に、ご家族の意向や気持ちを配慮し手紙や電話のやり取りは自由となっているが、現状としては訴えの都度電話ができる状況となっていない。どちらかと言うと極一部で一方的なやり取りとなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯を考慮しながら、大きな音や騒がしい雰囲気になる様な活動はできる控えている。催し物や食事メニューを通して季節の移り変わりが感じられるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓、それぞれの入居者が好みの場所があり思い思い過ごせる環境がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、ご本人が使い慣れた物や好みの物を持ち込み、配置してもらう事で少しでも自宅での生活に近い状態となるよう話をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰な声掛けや介護をする事がない様に常に意識している。トイレや居室等初めての方々でも場所が分からず困ってしまう事がないように表示をする等の工夫を行っている。		